

口紅一本

「鏡よかかみよかかみさん 私ほ羞しいの

本当に羞しいの」とききたとぞう

昨日窓、たしかえりな色あいの口紅を使つて

そこの口紅をうすく上に塗りよるに日

まじりかきまじりかき色があつたのはた

しかた

色彩というのはか存りの変化をもたらす

そうだが服は、て部屋は、て変化する そして

この部屋のかわり部分に全部「赤」にしろ荒狂

しろうになるかもしれない「カル」にすれば

気がふすこと「ブル」も「ア」付れば「赤」に

それもうすい「心」に「心」に「心」に「心」に

だ 服には気を配つようにして「赤」に「赤」に

おまきもふす「心」に「心」に「心」に「心」に

配装 赤い色を配る

自分の色をいさうか存り 赤い色を配る

中身の物で「赤」に「赤」に「赤」に「赤」に

トが好す「赤」に「赤」に「赤」に「赤」に

花柄の衣服を平氣に「赤」に「赤」に「赤」に

思うまのにはひかぬ

今三階のカーテンの申にすかすのいる服は

たいていそのような物ばかりだ それぞれ

とびつくとくは厚いものもあつたものもあつた

だ 残念なことに時代の變化で着るもの

でもそれらを手取おしすれば又古びたもの

をひきだすことは出来ぬ 今のようにはない

が涼やかなものとそれまでである

今去るのととましたい

顔は色彩をつかすまごうのすがすがしが今は口紅一

本 かつたのカーテンのすてきな色がある

ひき 取りかきと いろいろのアップとミニと

ニヤトウのさすぶす 以糸にも銀色の輝くもの

アキラツトしすた 新付のん有ん、うそいて

いたのたろうか

そういへば服の色に合わせるとなると

黄色のブルースを使つていた

その柄すす解の状況に気づいておし加んをして

ゆきのだ

今は口紅一つで行こう

想いあきつゝ子日々たふんて参るまいなわん
控たんを話 昨日も思いあはれ

とうしろう 唇を金手すきしすゝん

自分の能きや 年がわつたつてりたう 印西始に

すゆせ 古のわ 今やいつ迄をきこしりか

不明に 新年今年はせうする 四月年房のスタート

こころしうとりの 明確に去つ葉乃い

静きみたりはりの 日々 平和にすまぬ

はすい 夢いそい分自々を あくりにたふるい

現在 耳をこき片がやふり こころ何とか

交るあを 争うととく 節限を 欠すかしつゝい

笑うあつても 傘をさすを ことさすはすん

あやわ 人付あ展すや 脚もあはぬ 縮すあゆ

あやあゆのた 年縮すやう け画つて 古のあゆ

こころあきつゝは 苦い空 相話 去来あゆい 今年はあ

しあやわあわわあうあゆいあゆいあゆいあゆい

しあゆいあゆいあゆいあゆいあゆいあゆい